

MAIL MAGAZINE

メールマガジン

カタール W 杯で使用されているサッカーボールは中国製？

JSC 貿易部ニュース 中国編

師走の慌ただしい季節となりましたが、皆様ご清栄のこととお喜び申し上げます。
日頃は格別のご厚情を賜り、心から感謝いたしております。

さて、現在中東カタールの地で FIFA ワールドカップ (W 杯) が開催されておりますが、そんな中、これまであまり耳にしたことのなかった中国のある都市が注目を集めています。

「メイド・イン・義烏 (イーウー)」

「義烏市」は、中国浙江省にある市で、玩具・雑貨・日用品・スポーツ用品など「義烏市」で手に入らないものはないと言われるほど卸売市場が集積した世界有数の日用雑貨の街です。

なんと、カタール W 杯の公式グッズの半分以上は「メイド・イン・義烏」ということらしいです。ネットニュースでは、「義烏市は 50 日間で、カタール W 杯のために 10 万個のサッカーボールを作った」が検索のトレンド入りにもなりました。



サッカーボールからブブゼラ (アフリカの楽器)、各代表チームのユニホームからトロフィーまで、多くの人が思いつくサッカーグッズのほとんどは、「メイド・イン・義烏」とのこと。

義烏市のあるサッカーボール・メーカーの話によると、クライアントは、ブラジルやメキシコ・スペイン・フランスなどらしく、やはりサッカー大国が太客のようです。

そして、ヨーロッパ方面のクライアントに商品を運ぶ物流手段としては、国際定期貨物列車「中欧班列」が活躍しています。「中欧班列」は中国と欧州を結ぶ鉄道コンテナ定期輸送サービスです。義烏市を出発して、8ヶ国を經由し、わずか14日間でスペインの首都マドリードに着くそうです。海運と比べると所要時間は約半分らしく、同路線が開通してから現在までの9年間、アジアとヨーロッパの貿易の重要な輸送ルートとして、ますます存在感を増してきています。

義烏市からマドリードまでの路線は、新シルクロード経済ベルトを貫通し、長さは1万3052キロメートル。現時点で最も長い「中欧班列」の路線となっています。今年に入り、中欧班列（義烏市）は前年同期比約20%増の1423本が運行されているそうです。



また、鉄道の「中欧班列」のほか、今年、義烏市は「カタールW杯」専用の海運路線も就航させました。出発地点は世界一の貨物処理能力を誇る浙江・寧波の舟山港です。カタールに輸送されるサッカーボールやフラッグといったグッズは、貨物列車で寧波の港や上海の港にも運ばれ、そこから船で輸送されています。



こうすることで、「鉄道+港+船+企業」のメリットが発揮され商品の輸送効率が向上、サッカーボールやブブゼラといった商品を販売する企業によると、売上が前年比約30%増になったそうです。

義烏市では、現在同市と寧波の舟山港を結ぶ専用列車を1日3本運行しており、20フィートコンテナ換算で1ヶ月当たり、16000個分もの荷物を運んでいます。華東エリア最大のターミナルです。

今月の石種情報

「GL35」 産地：中国黒竜江省

やや細かい目合いで黒みがかった色合いが特徴の中目の御影石です。日本の銘石、大島石に似ている事からも「中国大島」と呼ばれることもあります。

丁場は今年停止しており、福建省内の工場では品薄の状態ですが、当社の協力工場に 40 m³ 限定で原石が入荷いたしました。長物は 10 尺まで生産可能です。

同じく「中国大島」と呼ばれる湖南省産の「AG231」が不安定な中、「GL35」はとて希少性の高い石となっております。

当社の検品員に原石を確認してもらいましたが青味がとてもきれいでしたとの報告です。

ご興味ございましたら、お気軽にお問合せ下さい。



皆様、コロナもあり落ち着かない日々が続いておりますが、くれぐれもご自愛のうえ、よい年をお迎えください。

2022/12/01